

# 商品開発のための官能評価

## セミナー概要

定量的記述分析 (QDA) 法は、選抜された 12 名前後のパネルを用いて試験するサンプルの特徴を記述し、さらに定量する官能評価手法です。QDA 法の結果は、サンプル間の官能特性の違いを明確にし、さらに嗜好データや機器分析データと相関づけることで商品開発の方向性の決定、およびベンチマーキングなどに大変有用です。講座では、パネルの選抜から用語開発、線尺度による評価など QDA 法の基本ステップを解説するとともに、ブラックコーヒーを用いて一連の QDA プロセスを体験していただきました。

回数	タイトル	カリキュラム
1 回目	QDA の概要 パネル選定方法	<p>「イントロダクション」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・官能評価の導入 - パネリスト、手法、解析と解釈など官能評価の基本原理に関する説明と、今回のワークショップで実施する内容について</li></ul> <p>「パネルの選定」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・パネルの選抜と適格性判断の方法に関して、推奨される指針とプロセスについて</li><li>・コーヒーサンプルを用いた一連の識別テストの実施と、その結果の評価。</li></ul> <p>「用語開発 part1」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・用語の開発の手順と注意点</li><li>・コーヒーサンプルを用いた用語の作成</li></ul> <p>&lt;ワークショップ&gt;</p>
2 回目	用語開発から評価の 練習、実施・解析	<p>「用語開発 part2」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・用語の開発、ラインスケールを用いた評価の実習 &lt;ワークショップ&gt;</li><li>・その過程での用語の絞り込み</li></ul> <p>「QDA の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コーヒーサンプルを用いた試験の実施</li></ul> <p>「解析の例」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・QDA の解析例。特に、パネリストのパフォーマンスの評価、サンプル間の差を評価する「分散分析」、および「主成分分析」に着目。</li></ul>



## 講師

### 講師プロフィール

アルファ・モス・ジャパン株式会社 ゼネラルマネージャー 吉田 浩一 氏

#### 【経 歴】

「電子嗅覚・味覚・視覚システム」等の販売、アプリケーション開発に約 20 年携わる傍ら、現在では広く官能評価事業（官能評価とその機器分析的なアプローチの両側面）を手掛ける。  
QDA 法については、2004 年から開発者の Dr. Herbert Stone とのセミナーやコンサルを通じて国内に拡大。

#### 【出版物】

「超五感センサの開発最前線」（2005 年, 共著）、「各種事例から学ぶ官能評価」（2008 年, 共著）、  
「実践事例で学ぶ官能評価」（2016 年, 共著）

## 受講者の声

今後の商品開発や商品販売品の選択などに活かせる。

今回はじめてこのようなプロジェクトがあるのを知りました。もう少し早く知っていたら、もっと学ぶことができたのにと残念です。他の方にも知らせたいと思いました。

内容がとても充実していてわかりやすかったです。

QDA 法を実践出来そうだったと思った。QDA からのパッケージデザインの考案もできると感じた。

いろいろな部門の方が参加されていて、自分の概念とは全く異なる意見も出て大変貴重な経験をさせていただきました。

